

東だより

武蔵野東学園広報 第59号

2022年 3月9日発行

〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-10
TEL 0422-52-2211 (代) FAX 0422-53-1090
https://www.musashino-higashi.org

末松文部科学大臣の視察

幼稚園園長 加藤 篤彦

今年度3学期始業式の翌日となる1月12日に、末松文部科学大臣を武蔵野東第二幼稚園にお迎えしました。今回の視察の目的は、国が推進しているインクルーシブ教育の先駆的な取組である「混合教育」を直接にご覧になることを中心にして、私立幼稚園における幼児教育の実践と、教科書のない教育における「質の高さ」をどのように構築しているのかを把握されることでした。

自閉症児クラスの保育では、年長児の造形遊びや、年中児の運動的な遊び(かけっこ、まねっこ遊び)を通して、それぞれの子供の成長に応じた、個別に用意された教材でのスモールステップで活動を積み重ねている場面。また、通常クラスでは、自閉症児クラスの交流活動として、年中児同士での造形活動と、年長児同士での十二支フルーツバスケットを楽しむ中で、お互いを認め合いながら自然に遊んでいる様子をご覧いただきました。視察後に年長児から大臣にサプライズで折り紙の花束のプレゼントをしました。とても喜んでいただき、戻ってから大臣室に飾っていただいたとのことでした。



その後、協議会を設け大臣との意見交換の時間をもちました。その内容は、質の高い幼児教育を実践するため本園の教職員の資質向上に向けた仕組みと工夫について園長からの説明。保護者の方から子供の成長の様子などの情報を園と共有する仕組みや、保護者として園に期待していることやコロナ禍において協力していること。また武蔵野市の教育委員会と児童福祉部局の担当者も来園いただき、幼保小の接続や部署同士の連携などの実際をお話いただきました。

この日の様子は大臣のTwitterにも紹介され「朝から元気な笑顔に迎えられました。武蔵野東第二幼稚園を訪問(中略)苦手な事も皆んなで、手をつないで乗り越える優しさ、根気強さ、遅しさを育む取組みに未来を拓く力を感じます。」とのコメントをいただきました。また、初等中等教育局長の伯井様と幼児教育課長の大杉様も随行されました。以下、伯井初中局長からコメントいただいた内容の一部を要約してご紹介します。

- ・混合教育について、幼児期の心の教育の実践であり、学園としても幼稚園から小中高専まで一貫して取り組んでおられることに感銘を受けた。文科省としてもこの分野についてどういう支援ができるか引き続き検討していきたい。
- ・何より子供が活発だった。園の教育方針の浸透や、園庭といった環境の工夫などがあると思うが、子供が活発で物おじせず、人懐っこいところが印象的だった。幼小や小中でも人事交流を行っているとのことだったが、そうした点も学園の方針を各学校段階に浸透させるポイントだと感じた。
- ・保護者や入園希望者に、園の方針や実践の見える化を図っていたのは重要な点であり、好事例だと思う。

後日談となりますが、大臣が本園の後に国立特別支援教育総合研究所に視察をされたそうです。その折にも本園のことが話題になったとのこと! その際、研究所から、「日本中の幼稚園が武蔵野東のようになるとよい」というようなコメントがあったそうです。

今年はスタートからオミクロン株の猛威にさらされましたが、そんな中でも誠にうれしいことが続いた始業の時期でした。

武蔵野東は武蔵野東らしく、地道に一步一步、これからもしっかりとした教育を進めてまいります。



幼稚園

第57回／園まつり・発表会

秋の行事～第57回園まつり～

創立57周年を迎えた<園まつり>は、今年も一人一人の「作りたい」という思いと、一緒に作り上げる面白さを大事に、造形作品に取り組みました。子供たちは自分の作りたいイメージをまず絵に描き、園にあるたくさんの絵本や図鑑を見ながら膨らませ、さらに年長さんは友達と共有し試行錯誤をしながら制作を楽しみました。制作過程では、コロナ禍で導入が進んだiPadを巧みに使いこなし、動きのある動物の画像を検索したり、自動改札機について詳しく調べたりして作品作りに夢中になりました。



第57回／園まつり

素材を選び、ディテールにこだわり、イメージ通りになるまで何度もやり直して、もっとこうしたいという思いを成し遂げようと制作に取り組み、どの作品も個性溢れるものになりました。

今年も展示見学は感染症予防対策で3日間に分散して実施しました。ご家族の方に自分の作品を一生懸命説明している子供たち、そして子供たちの話をにこやかに聞いているご家族の方々の様子は、本当に素敵なひと時でした。

冬の行事～第57回発表会～

年が明けた1月末、武蔵野市民文化会館大ホールで開催した発表会は、オミクロン株の急速な拡大の中で、当日を迎えることになりました。2日間、3部に分けてのプログラム構成、接触を避けた作品構成の工夫、舞台でのマスク着用、保護者席は一席に制限し、園児の控え室や会館内の移動の工夫等、考え得る限りの予防策を講じながら実施しました。



第57回／発表会ライブ配信

オープニングは子供たちが発表会を楽しみに、そしてコツコツ取り組んできた日々の様子のスライドショーからスタート。年少さんの屈託ない表現のダンス、忍者になりきっての年中さんの体操、年長さんの心がこもったハーモニカ演奏など、発表会において、なりたい自分を目指して表現する子供たちの姿に、会場から温かい拍手が贈られました。

また、会館のご理解と学園・舞台スタッフの協力のもと、Zoomでのライブ配信を実施し、延べにして900を超えるアクセスがありました。新しい試みとして、会場にお越しの保護者だけでなく、祖父母やご親族の皆様にもリアルタイムで子供たちの活躍をご覧いただくことができました。

◇ 発表会は終わっても熱い思いは続く

発表会が終わった後も、園児の熱い思いは燃えたままです。

年中見はかっこいい年長見の発表に憧れて、園庭では縄跳びにチャレンジしています。



もちろん年長見のように足にからまってもあきらめないかっこよくは跳べません。しかし、憧れの気持ちが強い分だけ、熱心に根気よく取り組んでいます。



年長さんのようにとびたい

舞台での発表を通して、保護者の皆様も、我が子が大きくなったなど成長を認めるよい機会となったと思いますが、発表会を終えた後、年中見の園庭でのこのような日常の姿から、いっそうの成長が見られます。もう来年度が楽しみで、園児とともに胸がふくらみます。

◇ 4年生と5年生のホームカミングデー!

昨年度、感染症拡大の影響で中止となった4年生のホームカミングデー。9月18日に、オンライン(Zoom)で開催しました。当日はたくさんの4年生5年生の卒園児たちが参加し、モニター越しに近況を報告したり、今勉強していることを話したりしました。自分の部屋から参加したこともあり、本棚から好きな本を紹介してくれたり、またオンラインのおかげで、海外に引っ越しした卒園児も時差にも負けず(現地時間は夜中とのこと)元気な姿を見せてくれたり、再会を喜びあいました。



◇ 保育業界初!発達支援の季刊誌「PriPriパレット」

年4回刊行の季刊誌に、特集記事<ひろがる制作>として、本園の特別支援コーディネーターが制作の苦手な子の意欲を引き出す楽しい制作の取り組み方、支援のポイントや制作のアイデアを紹介をしています。



小 学 校

第45回 発表会

昨年度は、コロナ禍のため武蔵野東中学校北原記念体育館で行われた発表会でしたが、今年度は感染対策を徹底し、小学校・中学校の部を分けて、府中の森芸術劇場の舞台で行うことができました。それぞれの演目を工夫し、特に音楽では鍵盤ハーモニカやリコーダーに代わるものとして「ミニキーボード」を導入。2学年での演奏にしました。5・6年生では、マスケームとダンスを選択制にし、それぞれがのびのびと演技していました。発表はマスク着用でしたが、衣装を身につけ照明を浴び舞台に立つ子どもたちは、皆生き生きと自信に満ち溢れた表情で、その子どもたちの発表に盛大な拍手が響き渡り、大きな達成感を味わいました。

この2年近くのコロナ禍で、制限されることもたくさんあり、日々の学校生活も随分と変化しました。マスクをつけて、人との距離に気をつけながらの生活。しかし、今できることを一つひとつ工夫して積み重ねてきたことが、今回の発表会での子どもたちの笑顔につながりました。



3AB ダンス



1.2年CDE マスケーム



6AB オーケストラ

理科「自作実験」

小学校では20年ほど前から、理科のカリキュラムの中で、自ら問題を解決していく力や科学的思考力を養うために「自作実験」に取り組んでいます。自作実験とは、本校独自の学びの方法で、与えられた課題から実験テーマを自由に決め、検証するための実験方法を考えるものです。これにより筋道をたてながら問題解決する楽しさを体験でき、より児童主体の学びを展開することができます。そして、この取り組みは、アンプラグド・プログラミングにもつながる学習と考えています。

各学年に応じた実験内容を設定し、4～6学年で自作実験を行い、4年生では「水の蒸発はどのようなときに起こりやすいか」、5年生では「植物が発芽、生長するために必要な条件は何か」、6年生では「地球的規模の環境問題における原因、被害に関わる実験」をテーマにしています。子どもたち主導で課題に取り組むことから、大変意欲的に臨むことができ、科学への興味や関心を一層高めることにもつながっています。



教室ディベートをしよう!

毎年4年生ABクラスでディベートの学習をし、授業のまとめには、ディベート大会を行っています。ちょっとした言葉が一つ足りなかったり、相手の言葉をさげすんでしまったり、実は難しい「対話」の基本を学ぶのがディベート学習です。話すコツ、聞き取るコツを学び、相手はどんなことを考え話しているのかを知ることによって、コミュニケーションも向上します。肯定側、否定側と両方体験すると双方の立場から物事を考えられるようになり、それは他者の理解にもつながっていきます。順序立てて相手にわかりやすく話す、それが論理的思考力の構築にもつながるのです。

今年の論題は「武蔵野東小学校は、制服を廃止すべきである。是か非か」でした。制服を廃止すると寒い日は暖かいズボンで登校ができ、体調管理がしやすくなるとか、制服があることでその一着を大切にすることでかえって無駄に服を買わなくて済むなど、様々な角度から意見が出てきました。



中学校

「探究科」今年度の取り組みと全国コンクール入賞

1・2年次に設けられている「探究科」の授業は、2年次の学年プレゼンテーションが活動の締めくくりとなります。校内審査の結果、優秀賞となった作品のタイトルが示すように、生徒の関心は多岐にわたります。最近は特にSDGsに関連したテーマが多くなっていて、世界にも目を向けた問題意識が探究の根幹にあることがうかがえます。

今年度の個人探究(2年生)優秀賞

- ・「ボディランゲージは語る」
- ・「完全自立型 海に浮かぶ家」
- ・「泥から発電 微生物は新エネルギーになるのか？」
- ・「イヤークワームを起こしやすい曲の作り方」
- ・「色彩計画を利用し、様々な建物にあう色を考える」
- ・「子ども食堂の実態と問題」

また今年度も2年次に提出した探究科の作品の優秀作を3年次の夏に旺文社主催第65回「全国学芸サイエンスコンクール」に応募し、以下の通り2名が上位入賞を果たしました(入賞は3年連続3回目)。さらに今回は学校としてフジテレビ学校特別奨励賞にも選出されました。



- ・審査委員特別奨励賞 理科自由研究部門(13,452点中の上位2作品に入賞)
「環境型社会に直接貢献するリサイクル ～リサイクルに特化した傘を作製する～」
- ・旺文社赤尾好夫記念賞 銅賞 社会科自由研究部門(1,849点中の上位3作品に入賞)
「新時代の女性像を探る ～ディズニープリンセスの分析を通して～」
- ・フジテレビ学校特別奨励賞 サイエンス分野 社会科自由研究部門
(応募校数2,408校の小・中・高校のなかから、サイエンス分野の社会科自由研究部門において優秀な作品を応募した学校1校に選出)



全国学芸サイエンスコンクールは、1957年から青少年の学術・科学・文芸の振興を目的に旺文社(内閣府・文科省・環境省が後援)が毎年実施し、今回も9万点を超える応募があった規模の大きなコンクールです。

“発表会”2年ぶり府中の森で開催

発表会は昨年度は緊急事態宣言期間中ということもあり中学校体育館での実施でしたが、今年度は2年ぶりに府中の森芸術劇場の大きな舞台で開催することができました。本物の舞台装置や照明の中で行う発表会は、生徒たちにとって貴重な経験です。リングや縄跳びを使ったCDE組の体育の演技や新しい試みとして、いろいろな楽器をとり入れたAB組の音楽の演奏など見どころの多い発表会となりました。



CDEクラスの体育演技



ABクラスの音楽演奏

2021年度高校入試合格状況

15歳という心身ともに成長した時期に、将来を見通し、自分の可能性を追求する受験の機会は、生徒を大きく成長させます。プランノートを使って自分の学習方法を確立し、3年次の特別進学学習や5教科の習熟度別授業をはじめ、高校入試に向けた論文の授業等独自のカリキュラムを通して、総合的な力を養っています。このように校内指導だけで受験に対応する十分な態勢のもとで、将来の目標に照らしてそれぞれが合格を果たし、進路を決めました。以下に主な合格校を紹介します。

- [国立] お茶の水女子大附属(2名)
- [都立] 国立(3名)、西、戸山、立川、国際、武蔵野北(2名)
- [私立] 早大高等学院(2名)、早大本庄(4名)、慶應女子、慶應義塾(2名)、慶応志木(2名)、明治大明治(2名)、明治大中野、明治大中野八王子、立教新座(2名)、中央大附属、中央大杉並(3名)、中央大高校、桐朋(2名)、法政大高校(2名)、広尾学園

その他

高等専修学校

修学学習 広島・山口・福岡

3年生は12月20日から23日の3泊4日で修学学習を行いました。本来であれば5月に北海道で行う修学学習ですが、行き先を広島・山口・福岡に変更しました。当学年は、1年次のスキー教室に行って以来、2年ぶりの宿泊学習です。事前学習に励み、生徒も教員も、とても楽しみにしていた行事です。

初日は東京駅から新幹線で広島へ移動。原爆ドームや平和祈念館、広島城を見学。2日目は宮島、錦帯橋から萩へ。3日目は松陰神社や萩の城下町を散策、秋芳洞、秋吉台を見学し下関ではフグ料理に舌鼓。最終日は関門海峡の海底トンネルを歩いて抜けて九州へ。北九州空港から飛行機で東京に戻ってくるという行程でした。

修学学習の思い出といえば、観光や食事に加え、友達との交流ですが、今まで体験した宿泊学習は少なくとも、さすがは3年生。3年間で培ったバディの関係も大変良好で、日頃の学校生活が充実していたからこそその関係性を垣間見ることができた4日間でした。帰校した数日後は、徐々に中国地方に感染拡大が散見されるようになり、まさに奇跡の修学学習となりました。



続「目指せ〇〇〇」チャレンジ

前回の東だよりで紹介しました、「目指せ〇〇〇」イベント・コンテストへの挑戦!の取り組みですが、その成果が結果として表れてきました。絵画、調理・製菓、情報ビジネスの3コースの生徒が、それぞれ入賞を果たすことができましたのでご紹介いたします。



- 絵画コース 3年橋本魁大君 作品名「モフモフ」
第33回全日本高校デザイン・イラスト展
NPO法人全国美術デザイン教育振興会理事長賞受賞
- 調理・製菓コース 1年鞍掛心優さん 作品名「ケーキのおにぎり」
第5回高校生和食料理コンテスト テーマ「進化系おにぎり」入選
- 情報ビジネスコース 3年根岸峻生君 作品名「自慢の先生
しのはらさとし先生」
第12回文書デザインコンテスト テーマ「学び舎」 佳作



橋本魁大君作 「モフモフ」



鞍掛心優さん作 「ケーキのおにぎり」

根岸峻生君作 「自慢の先生
しのはらさとし先生」

在籍するそれぞれのコースで切磋琢磨し、個性を生かしながら力を伸ばしています。これからもチャレンジは続きます。

32期生 成人を祝う会

1月7日に32期生の「成人を祝う会」が、本校講堂にて開催されました。この会は、むらさきOB会と学校との共催で行われます。今回の開催はコロナ禍ということもあり、残念ながら会場に集うことができない卒業生は、オンラインで参加しました。卒業生たちは、スーツや振袖姿で参加し大変華やかな様子でした。

近況報告では、一人ずつ現在の就職先の職場や進学先での頑張っている様子を堂々と発表し、さらなる成長ぶりに心温まる時間となりました。今後の活躍が楽しみです。

「成人を祝う会」としての開催は今回が最後となります。これは、今年4月から成人年齢が18歳となるからです。来年度からは「20歳を祝う会」と名前を変え、この会は継続されます。



コンピュータ教室の新聞づくり

年度をしめくくる「まとめ」の時期を迎えました。コンピュータ教室では、毎年子どもたちがその年に習得したスキルを使ってオリジナルの「新聞づくり」を行うまとめ活動を展開しています。自分の好きなテーマについて記事を打ち込んだり、お気に入りの画像をインターネット上から引用したりしながら思い思いの新聞に仕上げていきます。電車好きの子どもは「特急やまびこ新聞」とか「E3系新聞」といった具合に、こだわりは新聞名にも反映され渾身の一作が生み出されます。

教室の壁面には歴代の受講者が残した新聞が掲示してありますが、「自肅生活新聞」や「トースト新聞」といった彼らの日常生活を記事にしたものなどもあり、読んでるうちにほのぼのとした気持ちになってきます。「銭湯新聞」は、父親と東京中の銭湯めぐりをした取材レポートで、好きな銭湯の写真や居心地、好みのランキングまで記されています。他にも読みだすと止まらない魅力的な記事がたくさんあります。眺めているうちに「ほほう、なるほど、そうなのか…」と本当に新聞を読んでいる気持ちになってきます。今年はどんな特ダネ記事が出てくるか楽しみです。

教育センター



「自肅生活新聞」と「トースト新聞」



新聞記事の作成中

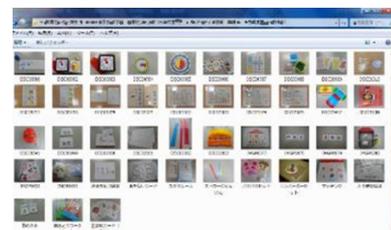
教育センターの研究活動

教育センターでは、スタッフたちの日々の教育実践から生まれた効果的な指導方法や、独自に開発したアイデア教材を定期的に発表し合う機会を設けています。また、スタッフそれぞれが、年度毎に自分の研究テーマを掲げ、その成果を保護者勉強会で講演し家庭支援につなげていくという試みもしています。こうした研究活動は、教育センターの事業の一つでもあり、スタッフの指導力向上とより質の高い教育を提供するための一翼を担っています。

指導方法の発表においては、手指の操作課題、数の概念、作文や文章読解、縄跳び、ソーシャルスキルといった子どもたちがつまづきやすく、指導の手立てが見出しにくいものへのアイデアが多く提案されます。この会では、スタッフ全員が自由な発想をもって切磋琢磨することを大切にしています。一人のスタッフの提案が、多くの子どもの課題達成を生み出す可能性を秘めており、こうしたチームでの情報交換は欠かせません。私たちの研究活動が少しでも子どもたちとその家族のお役に立てることを願っています。



アイデア教材のプレゼンテーション

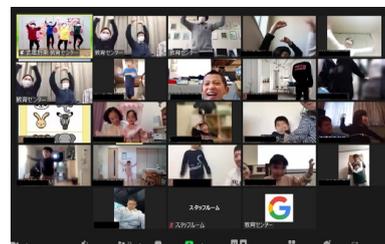


画像データにして情報共有しています

オンラインファミリーデーの開催

2月11日に幼児と小学生を対象にしたファミリーデーを開催しました。ファミリーデーは、受講しているプログラムの枠を超えた集会として子どもたちやその家族のつながりを深める目的で生まれた催しです。今回は、感染症予防への配慮からオンラインでの開催となりました。開始時間が近づくと、Zoomの画面にぼつりぼつりと参加者たちの顔が現れはじめました。普段は母親と来所して来るケースが多いのですが、当日は父親やきょうだいと一緒に参加する子どもたちもいました。普段は見るできない家庭での表情や行動の様子を見ることができるのがオンラインのよさではないかと思います。

計野所長からの開会のメッセージに続いて、「アブラハムには七人の子」のダンスを踊りました。画面をのぞき込みながら一生懸命体を動かす子どもたちの姿が印象的でした。活動は「さがしものゲーム」や「おもしろクイズ」と続き、あっという間に時間が過ぎました。テンポよく進行したことにより、全員が最後まで活動を楽しむことができました。参加された保護者の方々からは、「とても見やすく全てが計算されているような素晴らしい会でした」「一緒に踊り始める姿を見て感動してしまいました」「たのしい時間を本当にありがとうございました」などの感想が寄せられました。



ダンスの活動に夢中



さがしものゲーム

学園総合

寄付金申込者お名前 (2021年9月17日～2022年2月24日)

嶋田孝江様、中野杏南様、富士野陽子様、村里智里様、依田文也様、幼稚園後援会様、小学校後援会様、中学校友愛会様、高等専修学校後援会様、高等専修学校友愛会様、後援会OB会様、匿名3名様

武蔵野東学園をご支援くださる皆様へ

武蔵野東学園では、「混合教育」・「生活療法」の更なる充実のために皆様からのご篤志を随時受け賜っております。学園の実践する様々な教育活動、教育機器・設備ならびに施設の向上や奨学金制度の拡充などに活用させていただきます。ご支援のほどお願い申し上げます。

使途を指定してのご寄付について

学園の教育振興のための一般寄付のほか、幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校、教育センター、山梨友愛寮・チロル学園や奨学金制度へのご寄付など、使途を指定したご寄付も受け賜ります。

税法上の優遇措置について

・個人名義でのご寄付の場合

「税額控除」・「所得控除」という2種類の寄付金控除を確定申告時にお選びいただくことが可能です。

・法人名義でのご寄付の場合

「受配者指定寄付金」または「特定公益増進法人に対する寄付金」とどちらかの制度をご利用いただくことで、寄付金額を当該事業年度の損金に算入することができます。

①「受配者指定寄付金」としてのご寄付 → 寄付金全額を損金算入できます。

②「特定公益増進法人に対する寄付金」としてのご寄付 → 一定限度額まで損金算入できます。

詳しくは事務局企画広報室(TEL:0422-52-2211)までお問い合わせください。

学校法人武蔵野東学園 奨学金制度について

2014年4月に発足した「学校法人武蔵野東学園奨学金制度」。この奨学金は入学後に学資の支弁が困難となった場合、選考を通じ認定されれば年額240,000円を納付金から減額する形で交付するものです。本制度は学資支弁が困難な園児・児童・生徒の就学を援助し、将来において社会に有為なる人材を育成することを目的としています。奨学金の種別は返済不要な給付型で奨学生の認定は原則的に毎年度3名としています。

その手順としては、各園校の教職員が検討をして候補者を学園に推薦。学園は毎年度1月に奨学生選考委員会を開いて翌年度の奨学生を認定します(緊急の対応が必要な場合は別に認定することも可能です)。

この奨学金は同窓会・後援会OB会からのご寄付や連合後援会賛助会員の協賛金を原資としています。なお、本制度は最低6ヶ月間在籍している園児・児童・生徒を対象としています。

武蔵野東学園絵画作品展「東の丘」～East fields～のご案内

「たましん」の通称で親しまれている多摩信用金庫様のご厚意で、学園の幼稚園から高等専修学校までの園児、児童、生徒の絵画作品を、立川本店の2階「地域貢献スペース」に武蔵野東学園絵画作品展「東の丘」～East fields～として展示させていただくことになりました。幼稚園から12点、小学校から13点、中学校から10点、高等専修学校から10点、合計45点の絵画作品が会場に展示されます。お近くにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。



「東の丘」～East fields～ 武蔵野東学園絵画作品展

会場:たましん美術館 地域貢献スペース

(東京都立川市緑町3-4 たましん本店2階 北側通路)

展示期間:2022年1月9日(日)～4月1日(金)

利用時間:7:00～22:00

※無料でご覧いただけます。

幼稚園

2022年度入園 園児募集

*対象:3年保育(2018年4月2日～2019年4月1日生まれ)

*保育見学ご希望の方や入園面接についてのお問い合わせについては、

武蔵野東第一幼稚園(0422-51-3640)までご連絡ください。



☆2022年度5月より満3歳児保育が始まります。詳細は幼稚園ホームページをご覧ください。

教育センター

※下記ご希望の方は、教育センターへお問い合わせください(TEL0422-53-8585)

◇療育プログラム ※随時募集していますので、ご連絡ください

◇季節特別プログラム

●サマープログラム 対象:年中児～中学生 実施日:2022年 8月 1日～ 8月 5日(5日間)

●ウィンタープログラム 対象:年中児～中学生 実施日:2022年12月26日～12月28日(3日間)

●スプリングプログラム 対象:年中児～小4年 実施日:2023年 3月25日、26日、28日、29日(4日間)

◇支援者のためのセミナー

① 2022年 6月16日 ② 2021年11月18日 ③ 2023年2月8日

◇教員見学説明会

① 2022年 6月25日 ② 2022年 8月27日 ③ 2022年11月 5日 ④ 2023年 1月28日